

No. 1261

企業 zoom up

砂山靴下 株式会社

60年の時が紡ぐもの

業歴の長さは、経営者と従業員がつないできた時間が証明する。長ければ長いほど、不況や天災、コロナといった不測の事態や事業承継を乗り越えてきたことがわかる。今年、設立から60周年を迎えた砂山靴下(株)。代表取締役社長・砂山直樹氏に話を聞いた。

1963年に直樹氏の父親・博保氏が当社を設立し、靴下の製造を始めた。中国に自社工場を開設するなど規模を拡大し、94年に直樹氏の兄・正光氏が社長に就任。正光氏は、現在の事業のベースとなる美容や健康などの分野に業域を広げただけでなく、モノづくりにこだわるなどバランスのいい経営者だった。しかし、正光氏が死去。後を継いだ直樹氏は中国にある自社工場を閉鎖し、スリム化を図る一方、「Cocoonfit (コクーンフィット)」や「Carelance (ケアランス)」といった自社ブランドを立ち上げ、現在に至っている。

砂山社長によると、生活のオフタイムに着目し、靴下の可能性を快眠や冷え取り、さらに美容に見いだした商品開発を業界内で先駆けたのが当社であるとのこと。靴下の売り場を、下着売場から雑貨売場へ転換させた。「靴下といえば“いって

子どもから家業を継ぐことを考えていた
砂山社長



きます”から“ただいま”で使う。付加価値を生み出すなかで、“ただいま”から“おはよう”の間でも靴下が活躍できるのではないかと考えた」(砂山社長)。さらに、靴下は足の汚れやにおいなどデリケートな悩みにつながりやすい。そこで、実店舗よりもECの方が気軽に購入できるのではないかと仮説を立て、実行した。現在では靴下だけでなく、枕やマスクなど美容・健康雑貨の企画、開発を行い、女性向けの商品を増やしている。こうした家で使える商品の展開をコロナ前から行っていたことで、コロナ禍の巣ごもり需要によって売り上げを伸ばすことができた。

10年ほど前から「キモチデザインカンパニー」というビジョンを掲げている。このビジョンには、商品を使うことで気持ちが前向きに明るくなるよう、気持ちをデザインする企画をしていくという意味が込められているそうだ。砂山氏は「企業の寿命を社員の寿命で決めてはいけない」と話している。80周年、100周年を見据え、これからも前向きな気持ちになれる商品を発信し続けるだろう。

(取材・文／情報統括部 新井 雄太)



ロングセラー商品「Cocoonfit (コクーンフィット)」

会社概要

砂山靴下(株)

TDB企業コード：982639815

法人番号：9011801002381

東京都葛飾区奥戸6-27-5

代表：砂山 直樹 氏

設立：1963年(昭和38年)6月

資本金：4000万円

事業内容：美容・健康雑貨の企画、開発

年売上高：約18億1000万円(2023年5月期)



HPはこちら